

包括的・継続的ケアマネジメント支援業務 ～地域ケアマネジメント体制の構築～

地域包括支援センター西堀

包括的・継続的ケアマネジメント支援業務について

○目的

高齢者等が住みなれた地域で暮らし続けることができるよう、個々の高齢者等の状況や変化に応じて、包括的かつ継続的に支援していくための地域における他職種相互の連携協働の体制作りや個々の介護支援専門員に対する支援を行う。

○実施内容

・包括的・継続的ケアマネジメント体制の構築

①ケアプラン指導研修

②居宅介護支援事業所との意見交換

・介護支援専門員に対する個別支援

ケアプラン指導研修について

○目的

地域全体の介護支援専門員のケアマネジメント技術向上および今後の支援体制を検討する

○内容

- ・函館市全域の介護支援専門員を対象とした研修の開催（10包括合同）
- ・圏域の介護支援専門員を対象とした研修会、懇談会、事例検討会等の開催

ケアプラン指導研修（合同）について

- 年2回開催
- 函館市地域包括支援センター主任介護支援専門員部会が主催
- 包括が必要と思うこと、アンケート等で把握した介護支援専門員のニーズ等に基づきテーマを決めている
- 各包括が開催費用を分担して負担することで市外の講師を招くことも可能になり、最新の情報を共有することができる
- 市内の介護支援専門員が毎回100名以上参加している

ケアプラン指導研修会の様子 (平成29年度1回目)

「利用者理解を深めるために～利用者の話し、本当に聴けていますか？」
講師 NPO法人北海道総合福祉研究センター 五十嵐 教行 氏



ケアプラン指導研修会の様子 (平成30年1回目)

「地域包括ケアシステムとケアマネジャーの役割について～法的根拠から学ぶ～」
講師 函館市保健福祉部地域包括ケア推進課 相澤 浩行 氏



ケアプラン指導研修会の様子 (平成30年1回目)

「動き始めた地域包括ケアシステム～求む、意識改革！どうしたい？ 函館の地域づくり」
講師 北海道教育大学函館校 准教授 齋藤 征人 氏



ケアプラン指導研修（圏域）について

- 年5回開催（平成30年度西堀）
- 各包括が主催
- 居宅介護事業所との意見交換、アンケート等で把握した圏域内の介護支援専門員のニーズ等に基づきテーマを決めている
- 小規模研修だからこそ介護支援専門員の細かなニーズに応じたテーマの設定が可能
- 懇談会等の実施により、包括と介護支援専門員、介護支援専門員相互の顔の見える関係を構築する場になっている
- 圏域の介護支援専門員が20人前後参加している

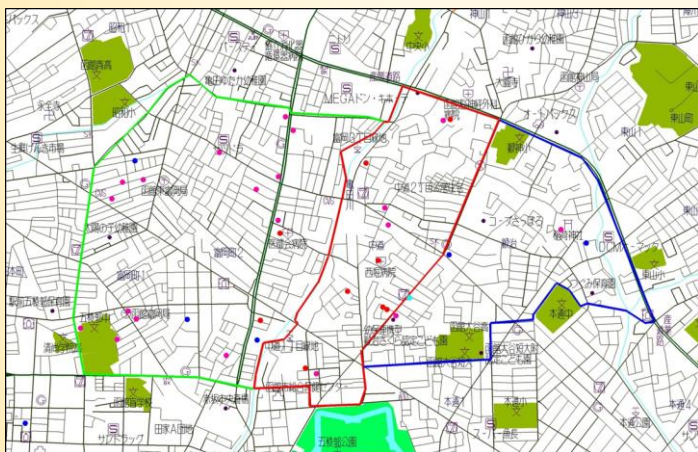
平成30年度ケアプラン指導研修（圏域）

○今年度の特徴

介護支援専門員が自ら学びたいと感じていることを学べる機会を積極的に創出する



- ・ニーズ把握のため居宅介護支援事業所へ訪問、意見交換を実施（全事業所訪問済）
- ・把握したニーズについては早急に手当てをする（研修テーマへ反映するなど）
- ・実施回数の増回（2回→5回）



居宅介護支援事業所

- ・アースサポート函館
- ・出逢い
- ・たんぽぽ
- ・介護の相談 丸山事務所
- ・ケアプランセンター富岡
- ・ケアプランセンターともしび
- ・グッドタイムケアプランセンター・函館
- ・ケアプランセンターマリン
- ・はこだて在宅ケアセンター
- ・ライフデザイン函館
- ・笑福

11事業所 ケアマネ30名

平成30年度のテーマ

| 実施月 | テーマ |
|-----|-------------------------------|
| 5月 | 生活保護制度（境界層制度）の理解 |
| 9月 | 「高齢者福祉サービス」と「高齢者虐待対応」 |
| 11月 | 事例検討「在宅看取りケースに対する支援内容とふり返し検討」 |
| 12月 | 口腔ケアの重要性（訪問歯科診療） |
| 3月 | 主任介護支援専門員との懇談会 |

ケアプラン指導研修の効果と課題

○効果

顔の見える関係になることで個別支援における協働した支援がスムーズに行えるようになった

- ・参加した介護支援専門員の「相談しやすくなった」との声
- ・介護支援専門員ひとりひとりの特徴などを考慮した関わりができるようになった

○課題

消極的な介護支援専門員もいるため、みんなが主体的に参加できる研修にする必要がある

委員の皆様にご意見をいただきたいこと

参加者全員が積極的に参加できる研修とするため、どのような方法が有効か。